

(学年) 1年次, (教科・科目) 英語・コミュニケーション英語 I

一斉学習

(単元) Lesson 3 Cool Culture from Japan

(本時のねらい)

助動詞 **can** の使われる場面での話し手の心情をさらに深く理解させる。身近な日常の動作について、「～できますか」のやり取りを体験させて自信を持たせる。

(ICT活用方法)

助動詞 **can** の使われる場面や話し手の心情を説明するため、またリスニング教材として、NHK 高校講座Eテレ ベーシック英語, コミュニケーション英語 I からの動画を電子黒板に映す。従来は助動詞 **can** が使われる場面は板書等で説明していた。NHK 高校講座の動画を活用すると、生徒にとって **can** の使われる場面や話し手の心情がわかりやすい。外国人インタビュー動画では既習の話題と表現が出てくるので聞き取りやすい。また、プレゼンテーションソフトで習得すべき表現をテンポよく投影して、会話の練習をさせる。

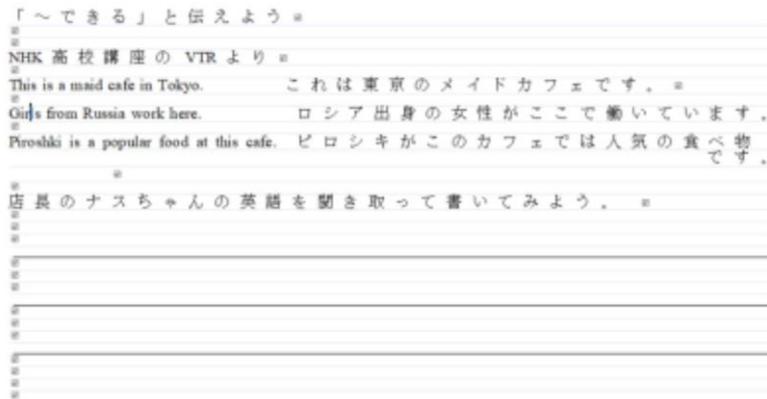
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・助動詞の意味や使い方を復習する。	・助動詞 can の使われる状況や話し手の心情を理解させる。	・助動詞の意味や使い方を NHK 高校講座の動画で提示する。
展開 30分	・語句の確認。 ・身近な日常の動作について「～できますか」と、質疑応答の練習をする。 ・ペアで「～できますか」のやり取りを役割を交代して練習する。	・生徒の音読状況を確認してよい点を積極的にほめる。 ・机間巡視をして、各ペアのよい点を指摘する。	・電子黒板にプレゼンテーションソフトで身近な日常の動作を示すイラストを提示する。最初はイラストと英文全体、次にイラストと英文の一部、最後にイラストのみを示して、スモールステップを設ける。
まとめ 5分	・海外の日本のマンガ人気について外国人がインタビューに答える動画から、助動詞 can を含む内容を聞き取る。	・教科書本文や会話練習で慣れ親しんだ「～できますか」の表現を聞き取って理解できる体験ができるように励ます。	・ロシア人の若者が日本のアニメについて熱心に語る NHK 高校講座の動画を提示する。

(授業の様子)



教材の投影



使用したワークシート



使用したイラスト

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

従来、板書で説明をしたり紙媒体でイラスト提示をしていたものを、プレゼンテーションソフトで電子黒板に投影した。生徒はいつもより顔を上げて、集中して授業を受けていたようだ。課題としては、書く速度が特に遅い生徒、2年前に来日して英語はもちろん日本語にも自信がない生徒等、配慮が必要な生徒の指導において、ICTをどのように効果的に使うかである。絵や動画を効果的に用いると、理解のゆっくりしている生徒にとって、言語活動を行う場面設定がよりわかりやすいものになると思われる。しかし今回は、助動詞 **can** について電子黒板上で生徒に示される情報量が多すぎて、彼らを混乱させたかもしれないと反省している。どの生徒にとっても関心を持って取り組める授業を展開できるように、まだまだ初歩的なICT活用技術のレベルを上げるように努めたい。また、ICT活用の有無に関係なく、対象とする生徒が理解しやすい授業を組み立てられるようにさらに努めたい。

